



JICA^{※1} (ジャイカ)

時々耳にする名前ですが、青年海外協力隊としてこのボランティアに参加した人たちが意外と身近にいるのはご存知でしょうか。

音楽の先生になりたかったという黒石市在住の佐藤^{さとう}夕^{ゆう}さんは、8年半勤めた銀行を退職しJICAの青年海外協力隊に参加しました。



JICA青年海外協力隊に参加して

佐藤 夕

JICAの青年海外協力隊として2年間南米ベネズエラへ派遣され、現地の小学校で情操教育^{※2}の支援のため音楽の授業を行いました。鍵盤ハーモニカやリコーダーなどの器楽指導や日本の童謡やソーラン節、黒石よさレ（私は黒石市出身です！）なども教材として音楽指導と共に日本文化の紹介も行いました。子どもたちは興味津々で何事にも一生懸命取り組んでくれましたが、日本の子どもたちと違い、ベネズエラの子どもたちは自由気ままで、授業中に走り回ったり、教室の出入りも頻繁で、突然マンゴーを食べ始める子がいたり、とにかく大変でした。それでも、明るく素直でまっすぐな彼らとたくさん笑って過ごした日々は、間違いなく一生忘れることのできない宝物となりました。

ボランティアという立場で派遣されたわけですが、生活面では現地の人たちに助けられることばかりで、本当にお世話になりっぱなしでした。いつも私のことを気にかけてくれて、困っているときは必ず誰かが助けてくれました。停電や断水も頻繁にありましたが、普段から水をタンクに貯めていたので、うろたえることなく冷静に対処できました。夜間の停電時は何もできないので、庭にイスを並べて家族と星を見ながら電気が復旧するのを待ちました。不便なことは日本よりも多いですが、家族の絆の強さや、誰に対しても親切で、初めて会ったのに「アミーゴ（友達）」という明るくて陽気なところなどは、見習わなくてははいけないと感じました。



※1 JICA 国際的な貧困削減、安全保障などを目的とし、発展途上国へ様々な支援を行っている外務省所轄の独立行政法人。技術研修生の受け入れや専門家の派遣、機材提供などの技術支援に加え、資金協力や物資援助、移住者や日系人に対する支援、国際緊急援助隊の派遣など、事業の内容は多岐にわたる。ボランティアなどの人選や派遣も行っており、日本と途上国の人々との架け橋としての役割も担っている。

※2 情操教育 たくさんものものに触れ合い心を豊かにする教育のこと。体を使い歌ったり踊ったり、演奏したりすることで個性や想像力、自分を表現する力を育てることもそのひとつ。



青森県教育委員会委託事業『あおもりの未来を創るアクティブシニアによる地域の未来応援事業』の一環として『大鰐町赤ちゃん子育てサークル：わにっこクラブ』の託児付き講座で佐藤夕さんをお迎えして、お母さんと子どもたちに体験談をお話していただきました。



佐藤さんのお話で一番びっくりしたことは、ベネズエラでは雨が降ったら学校がお休みということです。話を聞いた子どもたちは、口々に「うらやましい」と話していました。ベネズエラの子どもたちは日本の子どもたちより、かなりたくましく陽気と感じました。黒石よさレを踊ったベネズエラの子どもたちのDVDを観た時は、佐藤さんの指導力を垣間見たような気がしました。海外の楽しい話を聞いた子どもたちは「将来、海外で働く人になりたい」と夢を語っていました。

来年度も、わにっこクラブ、ママの学び舎事業『国際協力・国際交流』は継続する予定です。

『大鰐町赤ちゃん子育てサークル：わにっこクラブ』代表：阿保香月





フリーダイヤル：0120-99-7777 ～18さいまでの子どもの話を聞きます～



『チャイルドライン』という『18さいまでの子どもがかける電話』があります。子ども専用の電話です。フリーダイヤルですので電話代がかかりません。携帯からもPHSからもかけることができます。家の固定電話からも、今では少なくなった公衆電話からもかけることができます。

困っているとき、悩んでいるとき、嬉しいとき、なんとなく誰かと話したいときにかけてみてください。「はい、チャイルドラインです」と言ってボランティアさんが電話を受けます。ボランティアさんたちは『18さいまでの子どもたち』の話を一生懸命聞きます。お説教はしません。ちょっと言いにくいことでも、名前を言わなくてもいいので安心して話してください。『18さいまでの子どもたち』一人一人の気持ちを大切に、どんなことでも一緒に考えます。

毎週月曜日から土曜日の午後4時から9時にフリーダイヤル0120-99-7777に電話をかけると、子どもたちの話を一生懸命聞き、一緒に考えるボランティアさんに電話につながります。ボランティアさんと話していて、電話を切りたくなったら切ってください。

どうぞ、チャイルドラインという電話があることを覚えていてください。そして、もし電話しなくなったら、どうぞ電話をしてください。0120-99-7777です。

(チャイルドライン弘前・事務局長：伊丹秀子)



第5回市民ボランティア交流まつり

2月14日(日)駅前ヒロロ3階において、恒例の「市民ボランティア交流まつり」が行なわれ、たくさんの人たちで賑わいました。今年は初めてスタンプラリーを取り入れ、参加団体にシールを貼ってもらうことで、お子さんからお年寄りのかたまで、かなりお得な景品をゲットしておりました。ボランティア支援センターの折り紙・ぬり絵コーナーも盛況で、お手伝いしていただいたスタッフさんも大忙し！それがまた楽しかったようでした。



豆知識

日本人が良く使うジェスチャーの中には、外国人相手にうっかり使うと怒らせたりするものもあるので要注意です。

勝利を表すVサイン、イギリスでは向きを裏返して手の甲を相手に向けると「侮辱」のメッセージとなります。タイでは頭は最も神聖な部分であり、子どもの頭をなでたりすると神への侮辱と考えられています。よく使われるOKサインや、椅子に腰掛けて足を組み靴裏を相手に向けると、日本では何でもない事が、国によっては「侮辱」や「価値のないもの」となったりしてトラブルのもとになる事もあるようです。

さくら祭りも近づき、海外からもたくさんの旅行者が弘前を訪れます。ジェスチャーにも気をつけながら気持ち良い『おもてなし』ができればいいですね。



編集後記

2月28日(日)参加ランナー3万7千人の東京マラソンが開催され、沿道応援157万人のひとりとして声援を送ってきました。テレビなどで見覚えのある人にはその人の名前を、コスプレしている人にはそのキャラクターの名前で「〇〇さんがんばれ」と声を掛けるとほとんどの人が「ありがとう」と返事をしてくれます。応援しているはずが逆に元気を貰い楽しく過ごせた一日でした。ボランティアは1万人。たくさんの方々の支えがあったからこそこの大会を無事終えることが出来たと思います。お疲れ様でした。



<製作>市民ボランティアスタッフ<製作協力>弘前市ボランティア支援センター
〒036-8355 弘前市大字元寺町1-13 弘前市市民参画センター内

TEL:38-5595 FAX:36-1822

HP: www.city.hirosaki.aomori.jp/volunteershien/

※ URLが変更になりました。

情報紙についての意見・感想をお待ちしております。